

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月5日

協議会名: 立科町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 立科町	運行系統名: 西回り線① 立科町役場前～権現の湯～立科町役場前	利用者増及び収支率の目標達成に向けて、PR活動に注力し、時刻表の全戸配付、HP掲載、音声告知放送に加え町広報誌でも運行スケジュールについて周知した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 「利用者の増加」と「収支率を15%以上とする」という目標に対し、利用者325人減・収支率22.3%という結果となった。収支率については目標達成となったが、利用者数については昨年度より大きく減少した。	収支率については目標を達成したが、利用者については大きく減少した。主に高齢者が日中、買い物や通院等で利用することを想定する便であり、生活の行動パターンとのミスマッチが生じていないか調査し、これに応じる時間帯での運行となるよう検討する。
事業者名: 立科町	運行系統名: 西回り線② 立科町役場前～蓼科高校～立科町役場前	利用者増及び収支率の目標達成に向けて、PR活動を行い、時刻表の全戸配付、HP掲載、音声告知放送に加え町広報誌でも運行スケジュールについて周知した。また、通学で利用する学生のため、学校の予定に合わせ運行予定を調整した。	A 学校からの要請により、数回変更はあったが、それ以外は計画通り適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と「収支率を15%以上とする」という目標に対し、利用者246人増・収支率7.7%となった。	早朝の通学利用を想定しており、年度ごと利用する学生の人数により利用者数が増減が生じるため、利用の呼びかけによる効果が小さい。収支率改善のため、学校の予定に合わせた運行を継続し、運行経費の増額を防ぐ。
事業者名: 立科町	運行系統名: 西回り線③ 立科町役場前～蓼科高校～立科町役場前	利用者増及び収支率の目標達成に向けて、PR活動に注力し、時刻表の全戸配付、HP掲載、音声告知放送に加え町広報誌でも運行スケジュールについて周知した。	A 学校からの要請により、数回変更はあったが、それ以外は計画通り適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と「収支率15%以上とする」という目標に対し、利用者3人増・収支率11.6%と目標に届かなかった。	収支率については目標値を下回り、利用者については前年度並みであった。主に高齢者の朝の通院や免許証を持たない通勤者の利用を想定しており、利用者の生活・行動パターンとミスマッチが生じていないか調査し、これに応じる運行となるよう検討する。
事業者名: 立科町	運行系統名: 東・南回り線 立科町役場前～柳澤医院～立科町役場前	利用者増及び収支率の目標達成に向けて、PR活動に注力し、時刻表の全戸配付、HP掲載、音声告知放送に加え町広報誌でも運行スケジュールについて周知した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 「利用者の増加」と「収支率13%以上とする」という目標に対し、利用者104人減・収支率9.1%と目標に届かなかった。	利用者は減少し、収支率も目標を下回ったことから、収支率の改善策を検討する。主な利用者と考えられる高齢者のニーズに合った運行(時間帯、便数)となっているか見直しを行う。
事業者名: 立科町	運行系統名: シラカバ線 立科町役場前～女神湖～東白樺湖	利用者増及び収支率の目標達成に向けて、PR活動を行い、時刻表の全戸配付、HP掲載、音声告知放送に加え町広報誌でも運行スケジュールについて周知した。また、通学で利用する学生のため、学校の予定に合わせ運行予定を調整した。	A 学校からの要請により、数回変更はあったが、それ以外は計画通り適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と「収支率30%以上とする」という目標に対し、利用者582人減・収支率23.4%と目標に届かなかった。	通学での利用が主であるため、年度ごと利用する学生の人数により利用者数が増減し、利用の呼びかけによる効果も小さいため、収支率改善のためには、観光客やインバウンド対応にも注力し町観光部署と連携を図る必要がある。